HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集者序
Author(s)	津曲, 敏郎
Relation	池上二良; エレーナ・ビビコワ訳; 津曲敏郎編, ウイルタ口頭文芸原文集 : ロシア語逐語訳版 = СКАЗАНИЯ И ЛЕГЕНДЫ НАРОДА УЙЛЬТА. 北海道大学大学院文学研究科, 2008, 114p, (ツングース言語文化論集 = Исследования по Тунгусоведению, 38).
Citation	ツングース言語文化論集, 38
Issue Date	2007-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56510
Type	report
File Information	05preface_ja.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

編集者序

本書は池上二良採録・訳注『増訂ウイルタ口頭文芸原文集』(「環太平洋の言語」成果報告書A2-013、大阪学院大学情報学部、2002)の第1部をもとに、ウイルタ語原文表記をロシア字にあらため、ロシア語逐語訳を付したものである。池上教授が1955年から1959年にかけて(一部は1966年)北海道在住のウイルタから、これらの伝説・物語等28篇を録音してから、すでに半世紀ほどの時が流れた。その間、口頭文芸の伝承者の方々が次々に亡くなられたのみならず、ウイルタ語の継承・存続そのものも危ぶまれる状況を迎えている。

そのような危機的状況の中で、ウイルタの人びとの中から、自らの言語と文化を守り、次世代に伝えるための活動に熱心に取り組む動きがあることは、民族と言語の将来にとってひとすじの希望の光と言うべきであろう。北サハリン・ワール村在住のエレーナ・ビビコワ(Bibikova Elena Alekseevna)さんもそんなウイルタの一人である。1990年サハリンを訪れた池上教授の調査に協力したことをきっかけに、ウイルタ語に文字を制定し、初等教科書を編集する作業にも共に取り組んできた。その教科書も、このほどようやく刊行される運びとなったとのことで、お二人の多年に渡る努力に敬意を表したい。

本書はその教科書を補完するものとして意図されたものである。池上教授によるウイルタ語原文ローマ字表記をロシア字にあらため、ロシア語逐語訳を付す作業は、基本的にビビコワさんがあたった。ただし編集者の側で表記の一部に手を入れるとともに、ロシア語訳が不完全あるいは欠けていた部分(特に原テキスト18番以下)について補訂を行った。このロシア語訳の補充には、リム・ソフィア(Lim Sofija)さんから多大の助力を得た。ソフィアさんにはまた、今回の刊行のためにビビコワさんやサハリン州郷土博物館のタチヤーナ・ローン(Roon Tat'jana Petrovna)館長との間で仲介の役目を果たしていただいた。また本書の刊行には、日本学術振興会平成19(2007)年度科学研究費補助金基盤研究B「ツングース系危機言語のテキスト・コーパス作成」(代表:津曲敏郎、課題番号18320061)の研究資金をあてさせていただいた。

本書が、ウイルタの子どもたちやロシア語で育った大人たちにとって、ウイルタ語とその豊かな口頭伝承の世界を知るための手引きとして活用されることを、刊行にかかわったすべての方たちとともに願うものである。

なお本書の原著(池上2002)には音声CDが付されており、本書収録のすべてについて語り手自身のウイルタ語音声を聞くことができるので、あわせて活用されたい。

2007年8月

津曲 敏郎

(北海道大学大学院文学研究科教授)